

春日部福音自由教会 2020年4月19日 11:00 同時配信礼拝(ライブ配信礼拝)

聖書 マタイの福音書 28章 1節～10節

説教 『わかっています』 小野信一牧師

おはようございます。

2020年の4月19日、主の日を迎えました。

I 離れていても 私たちは「ひとつの群れ」

今私たちは共に礼拝をささげております。とはいえ、この礼拝堂に集まっている人はほとんどいません。6、7名の人達が奉仕にあたるなどしてここにいるだけであります。

今日は中高生も一緒の礼拝です。でも、その中高生の顔はこちらからは見えないのです。見てくれるかな、このカメラを通して。「見てくれているかな」と思いながらいます。そして丘の上会堂の礼拝も庄和の礼拝も行わないことになりました。礼拝堂に集まらずに、でも心では集まって礼拝をするということです。集まらない礼拝っていうのは初めてでしょう。これは異常なことです。おかしなことであり、どんなことになるのかわかりません。

一方何か新しいことをしている、新しいことが起こっている、ということも言えるでしょう。今日はそこにカメラがありまして、ここにマイクがありまして、そうやって映像と音を皆さんがいる場所に届けられるように、コンピューターとインターネットと YouTube を使って送ろうとしています。見えていますでしょうか。聞こえていますでしょうか。今日はチャンネルが、アドレス変更になりましたけれども、メンバーのページから変更をしました。そこを見てください...と言っても見ている人にはもう大丈夫なのですよね...

このようないわゆるテクノロジー技術、通信技術があることによって、ここにいませんけれども今、同じ時に礼拝をささげることができるということを感じたいと思います。でもこの YouTube による同時配信を受け取れない人もいます。聞くことができない、見ることができない人がいます。別の方法で届けます。音で、または紙に書いた文字で、CD でといくつかの方法を考えました。今まで礼拝に出てくださっていた方達にはみんなに届けます。全員に届けられるようにします。必ずそれをします。ですから待っていてください。そして今見ている方は心合わせてください。そしてそれをみんなに届けるために協力できる人は協力してください。お願いしたいと思います。

共に祈りましょう。改めてお祈りをささげます。神様、今私を見ていてください。一人一人の祈りを聞き、私達を見ていてください。心に留めてください。私達を助けてください。今日一日、この町とこの国と、この世界の人たちを、私たちの家族と神の家族をお守りください。今あなたの前に出て礼拝をささげます。あなたの前にいる一人一人を目に留めてください。心に留めてください。そして

共にいてください。み言葉をお語りください。主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン。

“聞け、イスラエル“ 旧約聖書の一番有名で大事な言葉かもしれません。「イスラエルよ、聞け」神様は言われました。旧約聖書の神の民に向かって、今も神様が招いておられます。神の民である一人一人を、この礼拝の場所の椅子のそれぞれの席に座っていた筈の一人一人を、今日も神様が御前に集めておられます。私たちは今離れていても、それぞれの家に留まっても、そこで神様を礼拝したいと願って、神の前に出ています。ですから今私たちは互いの姿が見えません。そしてお互いの声が聞こえません。離れています。それぞれの場所にいます。でも今私たちは神様が見ているその眼差しの中では神の御前に集められているのです。それぞれの場所で、いまさっきは 63 人視聴中ということでしたかね、他にもいるかもしれません。それぞれの場所で今、神の前に出ている私たちを、神様の目には礼拝のために集まる集団として見えているのです。ですから私たちも今、この目では見えませんが神様の視点で私達の群れを見ましょう。

II あなたのことは「わかっています」(マタイ28:5)

今日は復活後、復活祭後最初の日曜日です。マタイの福音書 28 章 1 節から 10 節を朗読していただきました。そして今日の中心の御言葉、今週の御言葉は、5 節です。御使いが言いました。「わかっています。あなた方のことはわかっています」。5 節をお読みしましょう。

“御使いは女たちに言った。あなたがたは恐れることはありません。十字架につけられたイエスを探しているのは分かっています。”

御使いを通して神様がマリア達に言ってくださいました。「あなたのことわかっていますよ」、そう言ってくださったのです。今日私たちはこの御言葉を聞きます。マリアたちがみ使いを通して聞いた神様の言葉、私たちは今日、今ここで、それぞれの場所で聖書を通して聞きます。「あなたのことをわかっている」。神様はあなたが置かれた状況、あなたの思い、あなたのしていること、しようとしていること、必要としてできなかったこと、そのいろんな思いを「わかっています」と言ってくださる。

マリアたちは何をしていたのか。イエス様を探しに行きました。墓に行きました。せめてイエス様の御遺体に油を塗って差し上げたいと思って来た。「あなたがしていること、しようとしたことはわかっていますよ」と言ってくださるのです。イエス様を探しに来たのですよね。「そのことをわたしは知っている」。神様が言われます。今私たち一人ひとりがしていること、先週したこと、今日しようとしていること、今週しようとしていること、それが十分できても、思うようにできなくても「わかっています」と神様が言ってくださるのです。そしてあなたが思っていること、感じていることを「わかっています。」

今日はマタイの復活の箇所を開いていますけどマルコの福音書では、女性たちは心配しています。「誰があの大きな石を転がしてくれるだろうか、誰がしてくれるのだろうか」心配しているのです。「自分の力ではとてもできない、自分の力ではどうすることもできない、動かすことができない、石をどかせない、誰がしてくれるのだろうか、誰に頼ったらいいのかもわからない」そういう女性たちの心配がありました。私たちも今そんなような心配や戸惑い、恐れを感じます。「誰がしてくれるのだろうか」「誰に頼ったらいいのだろうか」「誰が正しいこと教えてくれるのだろうか」誰にも分からない。この日本の国でこの新型コロナウイルスの感染がどうなっていくのか、世界の国々がどうなっていくのか、誰も正しい答えがわからない。そういう中にいます。でもその中で精一杯しようとしている、その中でマリアたちは香油を用意して墓に行ったのに、イエス様の遺体を見つけられなくて動揺しているのです。

ルカの 24 章では、これも復活の箇所ですけれども「途方に暮れていた」「恐ろしくなった」と書いてあります。あなた方が恐れていること、動揺していること、途方に暮れていること、どうしたらいいかわからなくなって立ち尽くしていること。「分かっています」「あなた方のことはわかっています」御使いが言いました。神様は今日私たちにもあなたが今置かれている状況、あなたの想い、戸惑い、恐れを「わかっている」と言ってくださるのです。

しかし本当にこの日本中も全ての人が不安を抱え、恐れ動揺し途方に暮れている、そして日本だけじゃない世界中の人が同じことで心配している、同じことを何とかしようと思っている、こういう動揺や途方に暮れる思いをみんなで共有するって時もなかったのじゃないかな、というふうに思うのです。マリアたちは墓に行きました。そして驚くべき光景に出会い、恐ろしくなります。しかし、「恐れるな」という言葉を聞くのですね。「恐れるな、あなたがたのことはわかっている、イエス様の体を探しているのでしょうか、イエス様はここにはおられません、よみがえられたのです。もうよみがえったのです」と知らせてくださいました。御使いが知らせてくれました。8 節には彼女たちは恐ろしくはあったけれども大いに喜んで、恐ろしさの中に喜びがよみがえってきた、喜びがよみがえってくる、そんな中で駆け出して行き、弟子たちに知らせようと走っていきます。恐れと大きな喜びを、大いに喜んでということですね。

ですから今日、私たちはこの言葉を聞きましょう。「今のあなたのことわかっている」と主が言ってくださいます。今日はこの言葉をまずは一つ聞いてですね、聞いて帰っていきたいと思います。”帰って”と言っても実際には帰らないのですが、それぞれの場所ですね、礼拝をささげ終えたら一週間の歩みに出発しましょう。「今のあなたのことをわかっているよ」という主の声を聞いて、出発しましょう。

いろんな人がいますよね、中高生、JY 卒業して大学に合格した、しかし 4 月末にならないと入学式をしないと、キャンパスに行けず、ただ家で待っている人もいます。オンライン授業しかない、

同級生に会えない、新入生同士が会えるはずなのに会えない、(あれ？高 1 は今どうなっているのですかね？まだ会ってないのかな？)同級生はどんな子が同じ高校に入ったかなって思いながら、よくわからない状態。小学生も 1 日入学式に行ってそれから行ってない。教科書をもって、やっともらってきて、家でただ勉強する...みたいな。いろんな感じです。お仕事に行く人もいますし、行かないでできる人はなるべく行かないようにするっていうような状況になっています。教会の事務の週報を作るのも、在宅でしてくださいみたいな感じになって、何とかできています。それぞれの置かれた状況があります。その中で「恐れるな、わかっている、あなたのことはわたしが知っている、あなた方のことはわたしが知っている、恐れるな、わかっている」神様が言ってくださいます。

今日聖書交読をしました。旧約聖書エレミヤ書 29 章、特に 11 節、今日はちょっと印刷した週報に交読の聖書箇所が抜けてしまいました。失礼しました。エレミヤ書 29 章 11 節、神の民の最も辛い時代、最も苦しい時代、エレミヤの時代でした。その時主は言われたのです。「わたしが知っている。わたしが知っている計画がある。それは将来と希望と平安を与える計画だ」と言われたのです。「わたしが知っている。」今日神様は私たちのこともそう言ってくださいます。

Ⅲ 生きている証「おはよう」と言い合う

さて、今日はこれだけ聞いて帰っていただければ大丈夫なのですけども、もう一つ後半のところです。もう一つのみことばに心をとめたいと思っています。短くそこに触れましょう。それはイエス様に「おはよう」と言うってことです。9 節でイエス様が「おはよう」と言ってくれました。恐ろしくなって大いに喜んで、駆け出して弟子たちに知らせようと思ったら、見よ、イエス様が彼女たちに現れた。そして「おはよう」と言った、と書いてあります。復活の朝、イエス様が彼女達の目の前に現れてひとこと言ってくださった。「おはよう。」今日私たちも新しくその声を聞きます。目に見えないイエス様が私たちにも言われます。「おはよう。」

「おはよう」...それはイエス様が生きてるって事です。何気ないひとこと、朝の挨拶です。でもそれはその人が生きてるって証拠です。マリアたちはイエス様はもう死んでしまった、墓で眠っている遺体を探しに行ったのです。でもイエス様はもう遺体ではなかったのです。イエス様は「おはよう」と言われました。死んでいる人は「おはよう」と言いません。イエス様は生きていたのです。たったその一言が、私は生きている、ということをはっきり示すことでした。何気ないひとことの朝の挨拶です。でもその一言が、どんなに嬉しかったでしょうか。

今皆さん、家にいることが多いと思います。普段家にいないお父さんが家にいたり、普段家にいない子供達も家にいたり、家の中の人口密度が増えたりなんかいろいろ...。仲良くやっているでしょうか？どうでしょうか。どうですか？家にいる時間が多い今日この頃、家族同士お互い「おはよう」と挨拶しますか。当たり前すぎて家族には挨拶しないみたいなことがあるかもしれません。けれど

も、でも大事な何気ないひとことですよ。「おはよう、起きましたよ、起きているよ、生きているよ」ってことですね。「おはよう」って言っている人は生きているのです。

イエス様が「おはよう」と言いました。イエス様が生きている証拠です。マリアたちはそれを知りました。今日私たちもイエス様の「おはよう」という声を聞きます。ちょっと耳をすませて心の耳で聞いてみたいと思うのです。イエス様が私たちに「おはよう」と言ってくださる声、聞こえるでしょうか。生きているので「おはよう」と言ってくださるのです。イエス様は死んだままではありませんでした。十字架で死んだイエス様はよみがって今も生きていてくださいます。イエス様の「おはよう」という声を聞く、たったそれだけでも、それは私たちがイエス様が生きているって事を確かめることです。私たちも今日生きています。皆さん家族で、家で「おはよう」と誰かが言ったら、あなたは何と言いますか。「おはよう」って言われて無言の人はいるでしょうかね。いるかもしれませんがね、お互い気持ちよく挨拶できたらいいですよ。

マリア達はどうしたのでしょうか。イエス様は「おはよう」って言っているのだけど彼女たちも「おはよう」と言ったとか、聖書には書いていませんね、よく分かりません。スルーしたのかどうなのでしょう。多分ですけど、驚いて喜んで「イエス様！先生！」って言って駆け寄って「あなたなのですね、おはようございます」って言ったか、（言ったかどうか分かりませんが）、足にタックルしたと言うか、足にすがりついたのだらうと思います。私たちも誰かが言ってくれたらこちらも言いますよね、起きてきたので「おはよう」って言われて、「起きたよ、おはよう」みたいなことを言う。イエス様が「おはよう」って言ってくれた、私たちもイエス様に「おはよう」と言うのです。

私たちは今日生きています。幸いなことに生きている。そして精一杯に生きます。無力感を感じながら精一杯生きる、精一杯閉じこもる、出かけない、人と触れないようにする、人と会うのを、触れることをこらえています。家にいる、それも精一杯の努力で大切なことです。お互いの命を守るために私たちは教会でさえも集まらないように“教会に来ないでください”という異常なことを言うほどに、今はそれを大事にしようと考えているのです。

精一杯閉じこもる一方、精一杯働く人がいます。医師が働いています。看護師も医療のスタッフも働いています。私たちの社会を支えて私達の命を支えてくれています。そのために働いている人たちがいます。その人たちを覚えましょう。電車を動かしている人、メンテナンスをする人、食べ物を作る人、届ける人、お金を使えるようにする人、キャッシュレスもあるでしょう、などなどを私たちの命と社会を支える仕事があります。できるだけ家にいて一切移動しない、でもどうしても必要な人には動いてもらう、働いてもらうようにする、と言うことです。私たちは今日生きている、活かされています。ですから精一杯のことをしましょう。なすべき仕事があるならばそれを精一杯しましょう。出かけないということがすべきだと思ったら、それを精一杯しましょう。

今私たちは生きています。イエス様が「おはよう」と言ってくださった。それを聞いている。聞こえるって事は生きているって事です。では何て言うでしょう、私達もイエス様に「おはよう」と言いましょ

う。死んでいる人に向かって「おはよう」って言わないですね。相手が生きているから。あるいは眠っている人にも「おはよう」とは言わないですね、相手が起きているから言うのです。相手が生きていますから言うのです。「イエス様おはようございます」と言えるのです。それはイエス様が生きていますからです。自分も生きていて相手も生きていますから言える「おはよう」のひとつです。

今日は御言葉を聞いて実行することの一つ、中高生でも小学生でもできることだと思います。御言葉を聞いて、聞くだけで終わらないで聞いて実行する事をお話したいと思います。それはイエス様に今「おはようございます」ということです。イエス様が「おはよう」って言ってくれたその声を聞く。そしてこちら、あなたもイエス様に「おはようございます」と言うことです。大人も中高生も小学生もできますよね。今言ってみましょう。今それぞれ心の中で、もちろん声に出してもいいです、心の中でもいいです、今イエス様に「イエス様おはようございます」と言いましょ。どうぞ。

言えたでしょうか。イエス様が「おはよう」と言ってくれて、こちら「イエス様おはようございます」と言う。「イエス様、今日も生きておられるんですね」そういう思いになります。そして今イエス様に「おはようございます」と言えたならば、明日目覚めたら、今週明日目覚めたら、イエス様に「おはようございます」って言いましょ。月曜も火曜も水曜も毎日、目覚めたらイエス様に「おはようございます」という。イエス様が「おはよう」と言ってくれる声に心の耳を澄ませてみる。イエス様が毎日「おはよう」って言ってくれたら嬉しいですね。それを聞きながら生きていきましょう。そして「イエス様おはようございます。イエス様あなたは今日生きておられます。私も生きていきます。」イエス様が今日生きておられると信じて告白することです。そのようにして生きていきましょう。それぞれの立場で精一杯になすべきことをして歩んでいきたいと思ひます。

IV 医療現場の方たちのために共に「祈りましょ」

今日は祈りを週報の中に書きました。週報がお手元に届いているかどうか分かりませんが、まだ届いていない方もいらっしゃるかもしれませんけれども、二つの祈りを書きました。あの、先ほど最初に祈った時に最初の一つを祈ったのですけれども、その二つ目の祈りを今これから共に祈りたいと思ひます。それぞれが今週一週間、精一杯生きることができるよう、精一杯閉じこもったり精一杯働いたりできるように、祈りたいと思ひます。今日は特に病院医師医療の現場で働く人たちのために、お祈りをしたいと思ひます。週報に書きました。PDF でインターネットにも載っています。大人の皆さんも中高生の皆も今週一週間、一緒に祈ってください。ではともに祈りましょ。

イエス様 あなたは今日も生きておられます。私達を目に留めてください。東京の大きな病院で、春日部、庄和の病院で、そこで働く医師、看護師、スタッフたち、その人たちの命が守られますように。その人たちが命を守る働きをできますように。私たちがお互いの命を大事にすることができましょように。共にいてください。主イエスキリストの御名によってお祈りします。 アーメン